

# JAPAN WEEK

TM

第36回

ジャパンウィーク® 2011年  
フランクフルト・アム・マイン



日独交流150周年  
Jahre Freundschaft  
Deutschland-Japan



Japan. Endless Discovery.

公益財団法人 国際親善協会





## ご挨拶

ヨーロッパで唯一高層ビル群があるフランクフルト・アム・メイン市は、ヨーロッパ金融の中心地であると共に、メイン川沿いにある博物館通りが示すように、文化・芸術の発信地でもある。そのフランクフルト市において日独交流150周年記念事業として、2011年11月5日から11月11日までの7日間にわたり「第36回ジャパンウィーク®2011年ドイツ連邦共和国・フランクフルト・アム・メイン」が開催された。

さまざまな文化活動を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国より58団体・1063名におよぶ方々がフランクフルト市を訪れた。

また、フランクフルト側からもオープニングフェスティバル、野外公演、舞台公演そして展示・実演に23団体・301名もの多くのご参加をいただいた。現地参加型の「双方向の交流」（日本側の参加者だけでなく、ドイツ側からも参加いただき「交流」する）を大きなテーマとして、両国民同士のきずなを深めた。

オープニングフェスティバル、野外公演、舞台公演、展示・実演、そしてさまざまな訪問交流プログラムが7日間にわたり行われ、フランクフルト市民はじめドイツ国民が多数来場し、大盛況であった。ジャパンウィーク®は感動・かけがえのない体験・草の根交流の7日間であった。

### イベント概要

開催都市	ドイツ連邦共和国フランクフルト・アム・メイン市
開催期間	2011年11月5日（土）～11日（金）7日間
開催規模	日本側参加者 1,063人
現地側参加	見学者 約21,000人
日本側主催	公益財団法人 国際親善協会
開催国側主催	フランクフルト・アム・メイン市
後援	在フランクフルト日本国総領事館、経済産業省、国土交通省、外務省、文部科学省、在日ドイツ大使館、日独協会、独日協会、フランクフルト、ドイツ観光局、日本政府観光局（JNTO）、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構（ジェトロ）、財団法人自治体国際化協会、財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会
助成	公益財団法人 双日国際交流財団
協賛	日本航空株式会社、日本興亜損害保険株式会社、株式会社みずほコーポレート銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行
目的	「ジャパンウィーク®」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、市民レベルの文化交流により、相互理解・友好親善を図る。 この「ジャパンウィーク®」は、各会場での公演、展示、実演などによって構成されているが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴がある。



## 参加団体一覧

北海道	■札幌大学ウレシバクラブ/アイヌ舞踊	兵庫県	■宝塚茶道同好会/茶道
青森県	■自然食レストラン 洋望荘/野菜細工	奈良県	■総合芸術集団 TERPSICHORE /太鼓・ピアノ
岩手県	■ミュージカル平泉上演実行委員会/ミュージカル	和歌山県	■スタジオぼこ・あ・ぼこ/タップダンス
栃木県	■津軽三味線貞清世会/津軽三味線 ■柿の木坂芸術学校/琴、馬頭琴 ■ライオンズクラブ国際協会 333-B 邦楽合奏団/邦楽アンサンブル	岡山県	■真庭市観光コンベンション誘致事務局/真庭市 PR
埼玉県	■劔伎衆かむみ/殺陣 ■世界盆踊り連/盆踊り ■前田 重人/美術 ■長沼静きもの学院/着物	島根県	■日本旅行 Tis 松江見学ツアー/見学
千葉県	■千葉年金 和の会/南京玉すだれ	広島県	■琛風会/尺八 ■創作和紙人形みどり会/和紙人形
東京都	■全日本婚礼美容家協会/着物 ■株式会社 アートクロス/美術品展示 ■日本ドイツリート協会/ドイツ歌曲 ■玉井京子/美術 ■早稲田大学書道会/書道 ■弥生会/茶道 ■Jバレエアーツイルンガ/バレエ ■ムラタダンススタジオ/バレエ ■七海有希/J-POP ROCK ■早稲田ちんどん研究会/ちんどん ■2011年ブランドウ・ジャパン海外セミナー/見学	徳島県	■鳴門市ドイツ館/ポスター展示
神奈川県	■藤永会/三味線	福岡県	■九州茶道文化交流協会/茶道 ■日本伝統工芸「能面」麻生能忍展/能面 ■九州日旅連/見学
新潟県	■笙翠会/日本舞踊	鹿児島県	■劇団夢飛行プロジェクト/舞踏劇
長野県	■和太鼓 アンサンブル TOKARA /和太鼓	ロンドン	■財団法人自治体国際化協会ロンドン事務所/地方自治体の PR
岐阜県	■ジャスタ名古屋 (日本弦楽指導者協会中部支部) /弦楽演奏 ■CENTRE DE DANSE DE OGAKI /バレエ	フランクフルト市	■アバ イメージズ 盆栽ギャラリー/写真・盆栽 ■アトリエ 侘び寂び/和菓子 ■第一フランクフルト空砲射撃隊/空砲の演舞 ■ドイツなぎなた連盟/なぎなた ■ギャラリークノッツマン/墨絵 ■日本人国際学校フランクフルト/よさこい・写真展示 ■第一ドイツ柔道クラブ/柔道・剣道 ■古武道ヘッセン/古武道・空手 ■栗の木 和太鼓フランクフルト/和太鼓 ■日独交流 150周年を祝う婦人の会 (日独盆踊り会) /盆おどり ■桜の木太鼓/和太鼓 ■草月 スタディーグループピンゲン/華道 ■田島 裕子/カリヨン ■ヴィーマイ会/コスプレ・メイドカフェ ■紫光会ヴィースパーデン/茶道 ■指圧ルームフランクフルト/指圧 ■日本人国際学校父母の会 ガラス工芸クラブ/ガラス工芸 ■ジング ウント シュピール クライス フランクフルト/コーラス ■まいこデザインスタジオ/人形・バッグ ■盆石と囲碁/盆石・囲碁 ■コス・シュムツクマニファクチュア & ジュエリーワークショップ/木目金 ■SG ニート 1877+ ザクセンハウゼン道場/合気道 ■TGS フォアヴェアト 1874e.V+FTG フランクフルト/合気道
静岡県	■煎茶道静風流/茶道 ■湖西市民合唱団/合唱 ■浜松・花蝶ちん/ちんどん ■松濤流/華道		
愛知県	■太鼓衆 翔鼓/和太鼓 ■師勝太鼓「鼓っつ」/和太鼓 ■箏曲寿都音会/琴 ■金城学院大学 書道部/書道パフォーマンス ■草木染工房しかり/染物		
三重県	■手織り 佐賀錦/織物 ■まつさかチャレンジプレイス 希望の園/美術		
滋賀県	■龍谷大学 華舞龍/よさこい		
京都府	■グループ "さん" /琴・三絃・尺八 ■絵手紙ボランティア コスモスの会/絵手紙 ■さくら (会食のつどい) ボランティア/書道・絵手紙 ■いけばな rime flower /華道		
大阪府	■西日本友好親善訪問団/交流 ■閑座会/茶道		

合計81団体 1,364名(うち現地参加23団体301名)

## 実行委員会

### 日本側

実行委員長	愛知 和男 元衆議院議員 公益財団法人国際親善協会 会長
名誉顧問	重枝 豊英 在フランクフルト日本国総領事館 総領事
理事	木村 陽子 財団法人自治体国際化協会 理事長 公益財団法人国際親善協会 評議員
理事	今村 忠雄 社団法人日本海外協会 会長 公益財団法人国際親善協会 評議員
理事	佐々木 隆之 西日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長
理事	兵頭 誠 日本興亜損害保険株式会社 取締役会長 公益財団法人国際親善協会 理事
理事	久利生 道郎 日本航空株式会社 本店国際販売部部長 公益財団法人国際親善協会 理事
理事	見並 陽一 東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役
理事	丸尾 和明 株式会社日本旅行 代表取締役社長 公益財団法人国際親善協会 理事
事務局長	坂牛 研一 公益財団法人国際親善協会 常務理事

(順不同)

### ドイツ側

実行委員長	Petra Roth【ペトラ・ロート】	フランクフルト・アム・マイン市長
理事	Jutta Ebeling【ユッタ・エベリング】	フランクフルト・アム・マイン第2市長
理事	Uwe Becker【ウヴェ・ベッカー】	フランクフルト・アム・マイン副市長
理事	Edwin Schwarz【エドウィン・シュヴァルツ】	フランクフルト・アム・マイン市議員
理事	Volker Stein【フォルカー・シュタイン】	フランクフルト・アム・マイン市議員
理事	Pro.Dr. Felix Semmelroth【プロフェッサー ドクター フェリクス・ゼンメルロート】	フランクフルト・アム・マイン市議員
理事	Pro.Dr. Daniela Birkenfeld【プロフェッサー ドクター ダニエラ・ビルケンフェルト】	フランクフルト・アム・マイン市議員
理事	Marlus Frank【マルクス・フランク】	フランクフルト・アム・マイン市議員
理事	Dr. Manuela Rottmann【ドクター マヌエラ・ロートマン】	フランクフルト・アム・マイン市議員
理事	Dr. Nargess Eskandari-Grünberg【ドクター ナルゲス・エスカンダリ・グリュンベルグ】	フランクフルト・アム・マイン市議員



## 01 ジャパンウィーク® 運営組織について

当事業は日本・ドイツ両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男／公益財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、ドイツ側はベトラ・ロート市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知 PR 活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定プログラムの主旨をフランクフルト市に理解していただき、主なイベント会場を市の中心部にご用意頂いた。

日本より都合5回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確実なものにして行った。

日本側では2010年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。



## 02 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、フランクフルト市、そしてコーディネーターにご協力いただいたおかげで期待通りの観客数であった。下記が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

### (1) メディアでのプロモーション

ウェブサイト、新聞を中心としたPR展開を実施していただいた。

- ① フランクフルト市のウェブサイト  
フランクフルト市の独自のウェブサイトを作成して、PRいただいた。
- ② 雑誌、新聞  
雑誌「プリンス」、や新聞「Frankfurter Rundschau」には、ジャパンウィーク期間前にイベントの記事を掲載していただいた。また、日本語新聞、「ドイツニュースダイジェスト」にも週刊にてジャパンウィークのイベントのお知らせ、ジャパンウィークのロゴを記載していただいた。

### (2) PRツール作成およびその配布

下記は早いもので9月中旬からフランクフルト市内にて展開された。

- ① 告知用フライヤー(9.8cm×21cm) 10,000 枚
- ② イベントプログラム(リーフレット)(14.5cm×20.8cm) 7,500 部
- ③ 街中での告知用巨大ポスター(ロールアップ) 3つ
- ④ 街中での告知用ポスター 2,000 部
- ⑤ フランクフルトの学校、子供たちに配布のステッカー 10,000 枚
- ⑥ 街中(特に地下鉄駅構内)での電子ビデオボード 12 箇所





### 03 各イベントプログラム

ジャパンウィーク®の大きなテーマは「双方向の交流」であるが、日本側からの参加だけでなく舞台公演、展示・実演についてドイツ側からの団体にも参加していただき、出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

イベントは11月5日(土)の正午よりハウプトヴァッヘにてオープニングフェスティバルが開催されジャパンウィーク®の幕があけた。その後、フランクフルト市旧市庁舎でのオープニングレセプション、シャウスピール・フランクフルト劇場およびボーンハイム劇場での舞台公演と続いた。舞台公演は11日(金)まで毎日開催された。展示・実演は6日(日)のリボンカットティング・セレ

モニーに始まり、10日(木)まで実施された。交流プログラムの学校訪問については10団体、老人ホームについては3団体が参加し、音楽交流プログラム、舞踊交流プログラム、草木染交流プログラム、障がい者施設訪問交流プログラム、料理交流プログラム、殺陣パフォーマンス交流プログラムにはそれぞれ1団体、バレエ交流プログラムには3団体が参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。毎年参加いただいている西日本友好親善訪問団は、交流会イベントおよびフランクフルトナイトにて大いに親善交流の輪を広げて貰った。



### 04 在フランクフルト日本国総領事館のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィーク®が大盛況に終えることができたのは一重に公式プログラムにご臨席をいただいた在フランクフルト日本国総領事館の重枝総領事をはじめ総領事館の皆様のご協力による賜物である。

今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂いた。ボランティアについては、フランクフルト在住のドイツ人学生、日本人留学生、在留邦人など幅広い方々にご協力いただき、ジャパンウィーク®スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張っていた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィーク®の成功はありえなかったと言っても過言ではない。



### 05 フランクフルトにおけるスタッフおよびご協力いただいた方々の活躍

フランクフルトでのジャパンウィーク®開催が決定してからイベントが終了するまで、下記の方々は、実務上のきめこまやかな打ち合わせと準備で大変ご協力いただき、今回のジャパンウィーク®を成功へと導いた。

コーディネーター  
清水クレーマー佳代子

フランクフルト・アム・マイン市  
Mr. Eduard Hechler  
フランクフルト・アム・マイン市国際部部长

フランクフルト・アム・マイン市  
Ms. Claudia Colloseus  
フランクフルト・アム・マイン市国際部

フランクフルト・アム・マイン市  
Ms. Anja Schiffler-Laeu  
フランクフルト・アム・マイン市国際部

フランクフルト・アム・マイン市  
Mr. Frank Wittersheim  
フランクフルト・アム・マイン市国際部



フランクフルト日本法人会・独日協会フランクフルト・フランクフルト観光局・在日本ドイツ観光局



# オープニングフェスティバル



**会**場となったハウプトヴァッへの広場は、特設ステージの周りをシティーフォーラムが管轄するファーストフードなどのスタンドで取り囲まれ、フェスティバル見学者およびスタンド利用者で身動きがとれないくらいの人で埋まった。オープニングフェスティバルの幕明けは現地側の和太鼓グループ、栗の木太鼓の皆様の力強い演奏で始まった。そして両国の実行委員会メンバーが見守る中で、第一フランクフルト空砲射撃隊のとてつもなく大きな空砲パフォーマンスの後、実行委員会メンバーが特設ステージに上がりセレモニーがスタートした。愛知会長、ペトラロートフランクフルト市長のジャパンウィーク開会のあいさつ、そして林文字横浜市長、ユルグ・W・ライブチガー シティーフォーラム会長のスピーチと進んだ。その後は各パフォーマンスグループの演奏となった。和太鼓アンサンブル TOKARA、と師勝太鼓「鼓つつ」のパワフルな和太鼓、浜松・花蝶ちゃんの楽しいちんどんパフォーマンス、総合芸術集団 TERPSICHORE の独特な創作演奏、古武道ヘッセンの力のこもった実演、太鼓衆翔鼓のリズム感あふれる和太鼓、日本人国際学校フランクフルトの生徒さんたちの息のあったよさこい、和太鼓アンサンブル TOKARA とさくらの木太鼓の気合いが入った躍動感のある和太鼓と続き、最後には日独交流150周年を祝う婦人の会（日独盆踊り会）、世界盆踊り連の盆踊りで、見学の皆様もいっしょになって楽しんでいただき、ジャパンウィークの幕明けにふさわしいイベントとなった。

- 日時: 11月5日(土) 12:00~15:00
- 場所: ハウプトヴァッへ
- 観客数(屋外): 約2,500名
- 日本側: 愛知和男財団会長、重枝豊英在フランクフルト日本国総領事館総領事、佐々木修日本興亜損害保険株式会社常務執行役員、久利生道郎理事、丸尾和明理事、坂牛研一財団常務理事
- ドイツ側: ペトラ・ロートフランクフルト市長、ベルナデッテ・ヴァイランド市議会議長、エドウィン・シャルツ副市長、ユルグ・W・ライブチガー シティーフォーラム会長、林文字横浜市長、佐藤茂横浜市長
- 参加者: 栗の木太鼓フランクフルト、第一フランクフルト空砲射撃隊、和太鼓アンサンブルTOKARA、師勝太鼓「鼓つつ」、浜松・花蝶ちゃん、総合芸術集団TERPSICHORE、古武道ヘッセン、太鼓衆翔鼓、日本人国際学校フランクフルト、さくらの木太鼓、日独交流150周年を祝う婦人の会(日独盆踊り会)、世界盆踊り連





# オープングレセプション

**レ**セプションはドイツ側音楽家による演奏でスタートした。今回、参加者全員に同時通訳用のヘッドセットが配られスムーズにレセプションは進行した。スピーチはペトラ・ロート市長、愛知会長、重枝総領事、そして林文字横浜市長と続いた。日本・ドイツ双方のスピーチが参加者の気持ちを高揚させてくれた。プレゼント交換はペトラ・ロート市長、愛知会長がそれぞれのスピーチ終了後に行われた。そしてペトラ・ロート市長、愛知会長、重枝総領事より参加証書が各出席団体代表にステージ上で手渡された。引き続き、レセプション参加者は隣室のレセプション会場に移動し、用意いただいた飲み物やパーティー料理を楽しみ、両国の実行委員会と歓談をした。思い出に残るレセプションのひとつであった。

- 日時: 11月5日(土) 17:00~18:45
- 場所: 旧市庁舎
- 参加団体: 34団体
- 日本側: 愛知和男財団会長、重枝豊英在フランクフルト日本国総領事館総領事、佐々木修日本興亜損害保険株式会社常務執行役員、久利生道郎理事、丸尾和明理事、坂牛研一財団常務理事
- ドイツ側: ペトラ・ロートフランクフルト市長、ベルナデッテ・ヴァイランド市議会議長、エドワン・シャルツ副市长、フォルカー・シュタイン副市长、ルッツ・R・レーテック副市长 他 市会議員など多数、林文字横浜市長、佐藤茂横浜市議会議長



## 表敬訪問

**6** 参加団体の皆様がお待ちになる中、ウーヴェ・ベッカー副市長、ベルナデッテ・ヴァイランド市議会議長、市会議員および多数の市役所幹部の皆様と重枝総領事が入場され、表敬訪問がスタートした。はじめにベッカー副市長から歓迎のお言葉をいただき、引き続き重枝総領事よりスピーチをしていただいた。そしてオープングレセプションにご参加されなかった団体に参加証書が手渡され、その後各団体代表より自己紹介が行われ、ベッカー副市長はじめフランクフルト市側の皆様は興味深く話を聞いていた。このあと記念写真を撮り、場所をレセプションバンケットに移し、フランクフルト市側が用意いただいた軽食と飲み物を味わいながら歓談を楽しんだ。

■日時: 11月7日(月) 17:00~18:00 ■場所: 旧市庁舎



**3** ユージカル平泉上演実行委員会の幹部の皆様がお待ちになる中、エリカ・ブフロインドシュウ副市長が来場され、表敬訪問がスタートした。はじめに副市長より歓迎のお言葉や、フランクフルト市および旧市庁舎の説明をいただいた。その後ミュージカル平泉上演実行委員会の代表の方より自己紹介があった。そして舞台公演のリハーサルがあったので限られた時間ではあったが、レセプションバンケットに移し、フランクフルト市側が用意いただいた軽食と飲み物を味わいながら歓談を楽しんだ。



■日時: 11月11日(金) 15:30~16:30 ■場所: 旧市庁舎



**今** 回、劇場公演は、前半の11月6日(日)～11月8日(火)はシャウスピール フランクフルト劇場、後半の11月9日(水)～11月11日(金)はザールバウ ボーンハイム劇場にて行われた。「舞台公演」のチケット予約および受け渡し業務はシャウスピール フランクフルト劇場が、ザールバウ ボーンハイム劇場はフランクフルト市がそれぞれ行い、10月中旬からスタートしていただいた。結果として10月末までにシャウスピール フランクフルト劇場は予約でいっぱいとなり、ザールバウ ボーンハイム劇場も、後半の実際に舞台公演が始まる前までには、各日ともほぼ満席となった。又、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、このイベントの成功を劇場公演で確信した。観客の反応も大喝采の拍手の連続、ときにはスタンディングオベーションもあり、公演は大成功のうちに幕を下ろした。



**劇** 場公演の初日。満員の客席に向けて和太鼓アンサンブル TOKARA の力強い、技量あふれる和太鼓演奏で初日の幕を開ける。剣伎衆かむゐのショーアップされた殺陣、長沼静きもの学院のドイツのお嬢さんをモデルに起用しての華やかな着物ショー。浜松・花蝶ちゃんの楽しいちんどんパフォーマンス。笙水会の鮮やかな日本舞踊と琴の演奏。太鼓衆鼓翔の力強い和太鼓演奏。そして最後が、フランクフルト和太鼓チームさくらの木太鼓と、和太鼓アンサンブル TOKARA の息のあったジョイント演奏で幕が降りる。質の高い出演者で、観客も大満足。滑り出しのよいすばらしい初日であった。舞台終了後には、浜松・花蝶ちゃんの皆様が舞台公演を終わって出てきた観客の皆様を出迎える演奏パフォーマンスを行い、多くの観客もそれに呼応し、とても楽しくほほえましい終了時の光景であった。

- 日 時：11月6日(日) 18:00～20:45
- 場 所：シャウスピール フランクフルト劇場
- 観客数：満席670名
- 参加者：和太鼓アンサンブルTOKARA、剣伎衆かむゐ、長沼静きもの学院、浜松・花蝶ちゃん、笙翠会、太鼓衆鼓、さくらの木太鼓

**今** 日もほぼ満員の客席。津軽三味線貢清世会の息のあった三味線・琴・尺八の演奏に引き続き津軽三味線の観客を引き付けるインパクトのある独奏で幕が開く。現地のバレエ教室の子供たちとコラボし、舞台いっぱいを使用して観客を魅了した CENTRE DE DANSE DE OGAKI のバレエ。藤永会による邦楽ならではの音色で観客を引き付けた三味線の演奏と続き、前半最後は金城学院大学書道部の書道パフォーマンス、そのリズムカルなパフォーマンスに大きな拍手が送られていた。後半は、ジャスタ名古屋の観客の心を癒す弦楽アンサンブル。郷愁を呼び起こす日本の歌を披露した湖西市民合唱団の女声合唱、ドイツからは見事に日本語で日本の歌を披露したジング・ウント・シュピール・クライス・フランクフルトの皆様が女声合唱。最後が、独特のうたを歌いながら心に響く和太鼓演奏をご披露していただいた師勝太鼓「鼓っつ」で幕を降ろす。弦楽アンサンブルと日独の女声合唱チームは、3.11の日本を襲った大震災、津波について支援、はげまをいただいたドイツの皆様への感謝の気持ちをお伝えし、そしてそんな日本人の心を慰めてくれる歌「見上げてごらん夜の星を」と日本人の心の歌「ふるさと」を合同演奏し、観客も心を打たれ、拍手が鳴りやまなかった。

- 日 時：11月7日(月) 19:30～22:25
- 場 所：シャウスピール フランクフルト劇場
- 観客数：約600名
- 参加者：津軽三味線貢清世会、CENTRE DE DANSE DE OGAKI、藤永会、金城学院大学書道部、ジャスタ名古屋、湖西市民合唱団、ジング・ウント・シュピール・クライス・フランクフルト、師勝太鼓「鼓っつ」





**シ**ャウスピール劇場最後の日、この日もほぼ満席であった。前半は、津軽三味線貢清世会の津軽三味線、琴、尺八による独特な邦楽の音色とハーモニー、及びすばらしい津軽三味線の独奏であった。そして和装で軽やかなメロディーに合わせて楽しいタップダンスを披露いただいたスタジオぼこ・あ・ぼこ、Jバレエアーツイルンガの技量が高く、観客を魅了したバレエと続き、日本ドイツリート協会の皆様の洗練された歌とピアノのドイツ歌曲で前半を終える。日本の歌も取り入れた落ち着いた演奏のパフォーマンスに観客は大きな拍手を送った。後半は、総合芸術集団 TERPSICHORE の皆様によるピアノと太鼓のアンサンブル、ピアノの流れるような旋律と太鼓が不思議に融合され、観客を引き込む音楽であった。そして龍谷大学華舞龍はエネルギー溢れるパフォーマンスを披露いただいた。最後は世界盆踊り連と日独盆踊り会による盆踊りで幕をおろす。最後の阿波踊りでは観客も入り乱れて加わって踊り出演者、観客が一体となった。重枝総領事、愛知会長も観客席から舞台上へ上って阿波踊りを楽しんでいただいた。この日のフィナーレとして最高潮の高まりを醸し出していた。

- 日 時：11月8日(火) 19:30~22:10
- 場 所：シャウスピール フランクフルト劇場
- 観客数：約600名
- 参加者：津軽三味線貢清世会、スタジオぼこ・あ・ぼこ、Jバレエアーツイルンガ、日本ドイツリート協会、龍谷大学華舞龍、総合芸術集団TERPSICHORE、日独交流150周年を祝う婦人の会(日独盆踊り会)、世界盆踊り連

**ほ**ぼ満員の客席。最初の演目は、全日本婚礼美容家協会の皆様による着物ショー。モデルの大部分を地元のお嬢さんがつとめ、髪が結び上げられメイクアップされて美しく変身したその花嫁姿に、盛んな拍手が送られていた。続いて千葉年金和の会の踊りと玉すだれの披露。特に南京玉すだれはとてもテンポがよく見ていて楽しいパフォーマンスであった。次はムラタダンススタジオのバレエ。鍛え抜かれたムラタダンススタジオの生徒さんたちの美しいパフォーマンスと小さなかわいらしい生徒さんたちも含めた緻密に計算された舞台下および舞台上の全体的な動きは見事であった。そしてドイツから第一ドイツ柔道クラブのみなさんの引き締まった空気を感じる剣道披露で前半を終える。後半は、日本ドイツリート協会のドイツ歌曲、とても華やかで気持ちをゆったりとさせていただけ美しく、すばらしい歌曲のパフォーマンスであった。観客は大喝采であった。そして琛風会の尺八独奏。ソロ演奏であったが、舞台全体に「幽玄の世界」を醸し出して観客はその演奏を堪能していた。次にグループ“さん”の琴・三味線・尺八演奏。三つの邦楽器による演奏は、日本の伝統音楽のハーモニーを楽しませてくれた。そして最後にドイツの栗の木 和太鼓フランクフルトの皆様による和太鼓演奏。掛け声と複数の太鼓の演奏はとても息のあったものであった。

- 日 時：11月10日(木) 19:30~23:00
- 場 所：ザールパウ ボーンハイム劇場
- 観客数：約550名
- 参加者：全日本婚礼美容家協会、千葉年金和の会、ムラタダンススタジオ、第一柔道クラブ(剣道)、日本ドイツリート協会、琛風会、グループ“さん”、栗の木 和太鼓フランクフルト



**今**日から会場をボーンハイムに移してのパフォーマンス公演。前半のトップは、総合芸術集団 TERPSICHORE の皆様のピアノと太鼓のアンサンブル演奏。ピアノの独奏の曲はとても美しい旋律であり観客の心を癒した。次は札幌大学ウレシクラブの皆様によるアイヌ民族の唄と踊り、踊りが始まる前に解説がありわかりやすかった。口で独特の鳥の鳴き声をまねたり、独特の旋律の歌、掛け声が入ったりしながらの踊りであった。そして柿の木坂芸術学校とライオンズクラブ国際協会 333-B 邦楽合奏団による邦楽演奏。特に馬頭琴の演奏では、珍しい高音の美しい音色と演奏者のテクニックに観客は聞き入っていた。前半最後がヨーロッパでも活躍する七海有希のJポップロック。その若くてかわいらしいビジュアルからはギャップさえ感じる確かな説得力のある歌声で観客に元気を与えてくれた。後半は、日本ドイツリート協会のドイツ歌曲。奥行きが深いすばらしい歌声に観客は惜しめない拍手を送った。次には流れるような美しい琴の音色を箏曲寿都音会の皆様にご披露いただいた。そして最後が劇団夢飛行プロジェクトの映像とパフォーマンスによる総合的な日本の芸能文化の紹介で幕を降ろす。夢飛行プロジェクトのめまぐるしく変わるシーン展開に、客席からは大きな拍手が送られていた。

- 日 時：11月9日(水) 19:30~22:50
- 場 所：ザールパウ ボーンハイム劇場
- 観客数：約500名
- 参加者：総合芸術集団TERPSICHORE、札幌大学ウレシクラブ、柿の木坂芸術学校、ライオンズクラブ国際協会333-B邦楽合奏団、七海有希、日本ドイツリート協会、箏曲寿都音会、劇団夢飛行プロジェクト



**前**半は、ミュージカル平泉上演実行委員会のミュージカル「夕焼けの向こうに」。元来2時間以上の作品をこのドイツ公演のために70分に凝縮し、衣装もよりカラフルなものに作り替え、丁寧な字幕説明とも相俟って観客はミュージカルの世界に引き込まれていた。パフォーマンス終了後には、観客一同のスタンディングオベーション。ミュージカルの出演者、関係者一同の思いが伝わった感動の舞台であった。後半は日本から和太鼓アンサンブル TOKARA とドイツからさくらの木太鼓、栗の木 和太鼓フランクフルトの3団体の合同演奏。スポットとしての合同演奏であったが、それぞれのグループのメンバーが演奏ごとに協力しあい、とても息のあったパフォーマンスを披露いただき、最後には観客一同からのアンコールのリクエストもあり、大変盛り上がりがあった。すばらしい舞台公演最終日となった。

- 日 時：11月11日(金) 19:30~21:35
- 場 所：ザールパウ ボーンハイム劇場
- 観客数：約600名
- 参加者：ミュージカル平泉上演実行委員会、和太鼓アンサンブル TOKARA、さくらの木太鼓、栗の木 和太鼓フランクフルト



和太鼓  
アンサンブル  
TOKARA



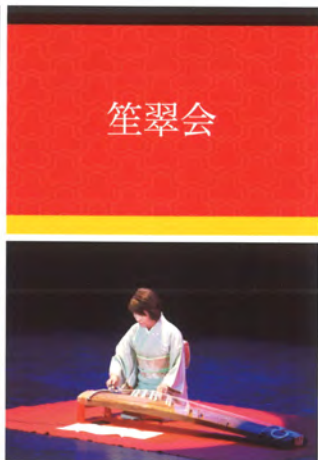
劔伎衆かむろ

長沼静  
きもの学院



浜松・花蝶ちん







金城学院大学  
書道部



ジャスタ名古屋  
(日本弦楽指導者協会中部支部)

湖西市民  
合唱団



師勝太鼓  
「鼓つつ」







世界盆踊り連



龍谷大学  
華舞龍

札幌大学  
ウレシパクラブ



柿の木坂  
芸術学校







ライオンズクラブ  
国際協会  
333-B 邦楽合奏団



箏曲寿都音会





全日本婚礼  
美容家協会



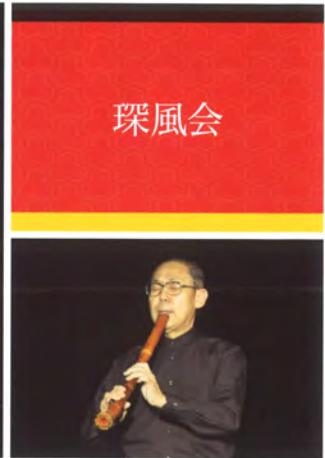
千葉年金  
和の会

ムラタ  
ダンススタジオ



日本ドイツ  
リート協会







## リボンカッティングセレモニー

**展**示・実演会場パルメンガルテンにて、展示・実演のオープニングセレモニーが開催された。オープニングでは愛知会長、フランクフルト市議会議員ベルナデッテ・ヴァイランド氏、およびパルメンガルテンの館長である、マチアス・ジェニー氏のご挨拶および開催宣言が行われ、日本からの21団体、現地フランクフルトから14団体、ロンドンから1団体の紹介が行われた後、日本で地震と津波の被害を被った洋望荘様と彼らに対して寄付金を出された現地企業、コンチネンタル社代表の方の紹介を重枝総領事にしていただいた。その後、ドイツ側からはベルナデッテ・ヴァイランド氏、および横浜市議会議員の佐藤茂氏、日本側からは愛知会長、および重枝総領事による、展示・実演開場のセレモニー、リボンカッティングが行われた。開場後の出展ブースの見学では、両国のご列席の方々は日独両国からの各出展の代表者とお話しをされたり、じっくりと時間を掛けて出展作品をご覧いただいたりして、楽しんでいただいた。

- 日時：11月6日(日) 11:00~11:30 ■場所：パルメンガルテン ■観客：約250名
- 日本側：愛知和男財団会長、重枝豊英 在フランクフルト日本国総領事館総領事、久利生道郎理事、丸尾和明理事、坂牛研一財団常務理事
- ドイツ側：ベルナデッテ・ヴァイランド市議会議員、マチアス・ジェニー パルメンガルテン館長、佐藤茂横浜市議会議員

## 展示・実演

**本**年は、一般の展示・実演参加者の皆様については、パルメンガルテン、株式会社アートクロス様の美術展としてはスワンホールと、2箇所での展示となった。パルメンガルテンは市民の憩いの場所である植物園であるが、紅葉の時期と重なり大変美しかった。展示・実演会場はその植物園の中にそれぞれ設置された。家族連れや若いカップル、お年を召した方々など様々な年齢層の方がお見えになり、平日には学生さんが授業の一環で来られたり、会場は大変多くの来場者で活気のある展示会場となった。また、フランクフルト市及び近郊にお住まいの日本人及び日系の方々に書道や折り紙の実演をお手伝いいただき、日本文化の紹介とフランクフルトの方々との交流に多大なるお力添えをいただいた。スワンホールでは日本画、水墨画、洋画、書道、工芸におよぶ96点の作品が展示され、フランクフルト市民の皆様には各カテゴリー別に展示された、日本美術の歴史、伝統、多様性を楽しんでいただいた。

- 日時：11月6日(日)~10日(木) ■場所：パルメンガルテン



## 株式会社アートクロス

「Japan Art Festival in Frankfurt 2011」を開催いただいた。96点の日本美術の作品は5部門に分かれて展示された。ご来場された市民には、ご夫婦連れ、年配の方々だけでなく若い方が一人で訪問される方もいた。ご来場された皆様は展示された多種多様な美術品を楽しんでいた様子だった。

- 日時：11月6日(日)~11日(金)  
(11日は午後14:00まで展示)
- 場所：スワンホール





## 玉井京子

和紙、金属など様々な素材で制作された美術作品の展示。会場の白い空間にインパクトのある壁面作品と2点の床置き作品は大変印象的で、入場者の目を引きつけていた。娘さんとお二人で展示会場にて入場者の対応をされていた。



## 草木染工房しかり

草木染めの作品（着物・布など）と原料と成る草木種のサンプルの展示。実演では草木染に使用する天然顔料を使い、型染めの技法を来場者が体験。中国偉人を描いた長い布地の作品が頭上に渡る展示で、光にすけた草木染ならではの優しい色合いが印象的であった。



## 早稲田大学書道会

漢詩の書作品等6点の書を展示。実演では来場者の名前などを書にしたためたり、来場者自身が書道を体験。来場者の名前を漢字に変換する補助として、電子辞書からスマートフォンへと年々変化しているのが大学生らしかった。



## 松濤流

竹を器に「滝」「花筏」「花垣根」の日本の風景を表現したいけばな作品を展示。実演では竹材に和紙と水引をあしらった器でいけばな体験。参加した来場者は自分でいけた作品を大事そうに持ち帰っていた。作品を眺める子供が大変可愛いと、一緒に折り紙を折るなど大人だけでなく子供とも交流されているのが印象的であった。





## 絵手紙ボランティア コスモスの会

絵手紙の展示と実演。干支、四季を代表する動植物、クリスマス、正月等の歳時の絵手紙作品と、ドイツの看板をモチーフにした絵手紙を展示。実演では絵手紙制作の実演と来場者が思い思いの絵手紙を描く体験。展示最終日には展示されていた絵手紙を来場者に配り喜ばれた。



## 鳴門市ドイツ館

ポスターやパンフレットで鳴門市ドイツ館の展示・紹介。第一世界大戦時下に鳴門市にあった板東俘虜収容所でのドイツ兵俘虜と鳴門市地域の人々との交流の話は、フランクフルト市民にとって大変興味深いものであった。



## 日本伝統工芸「能面」麻生能忍展

50面にも及ぶ能面作品の展示。実演では作業工程を説明しながら、のみを使っての作品作りを披露。一見難しそうな能面の世界を、判りやすく丁寧に解説いただいた。ジャパンウィーク®には過去にも度々ご参加いただいているが、今年は初めて2人のお弟子さんとご一緒に参加となった。



## まつさかチャレンジドプレイス 希望の園

障がい者アーティストによる美術作品の展示。色鮮やかな作品はどれも大変力強く、多くの来場者が1つ1つの作品に足を止め見入っていた。初日は松阪市のハッピーでパンフレットなどを配布し、松阪市PRもしていただいた。展示3日目からは現地で交流した施設と作り上げた版画も展示された。





## 手織り 佐賀錦

金銀箔を漆で和紙に貼り細く切ったものと、絹糸を織っていく佐賀錦のバック、帯、小物等作品の展示。実演ではご自分で織られた帯を締めた和服姿で、織台による製作過程を実演していただいた。特に女性の来場者は美しく織り上がる佐賀錦を興味深く見ていた。



## いけばな rime flower

平皿、竹、花瓶と趣の違う花器で嵯峨御流いけばな3点を展示。実演では日本らしい色の組紐をあしらった箱に、来場者が花を生けるいけばなの体験教室を行った。写真でのいけばな作品の紹介や、いけばなに関する質問に直接来場者の方々と言葉を交わされた。



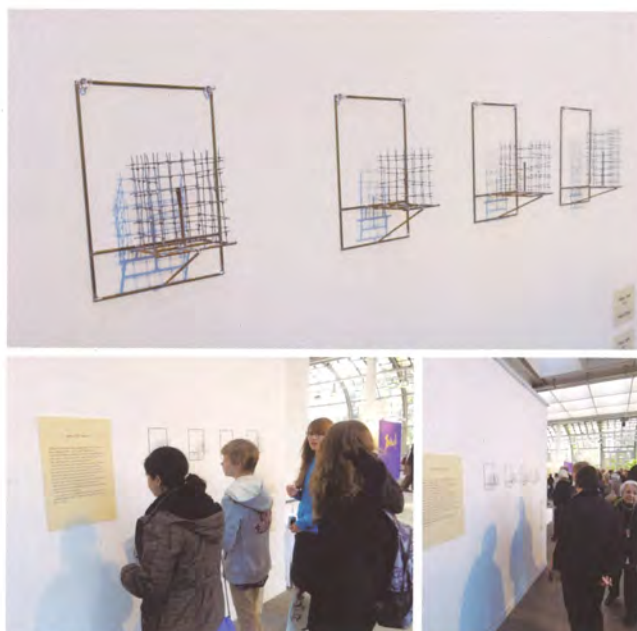
## さくら (会食のつどい) ボランティア

会食を通じて高齢者の孤立化防止などの活動をされている「さくら (会食のつどい) ボランティア」の活動紹介と、書の作品の展示。実演ではひらがな教本を用いて、来場者に自分の名をひらがなで書く体験。書道や折り紙をして交流をされていた。



## 前田 重人

真鍮と針金で制作された立体作品を展示。「静寂な～ silent」という作品タイトルの通り、会場入り口という賑やかな場所ながら、作品の周りだけが静寂に包まれるような雰囲気であった。展示期間中前田様は、毎日会場に来られ、来場者や日本からの展示参加者との交流をされていた。





## 創作和紙人形みどり会

和紙で作られた羽子板や壁掛け、人形を展示。実演では人形をモチーフとした小さな作品をご指導いただいた。童の遊びと題した作品では繊細な和紙人形の世界に来場者は魅了されていた。ご用意いただいた実演用の材料はすぐになくなり、その後は折り紙で交流をされた。



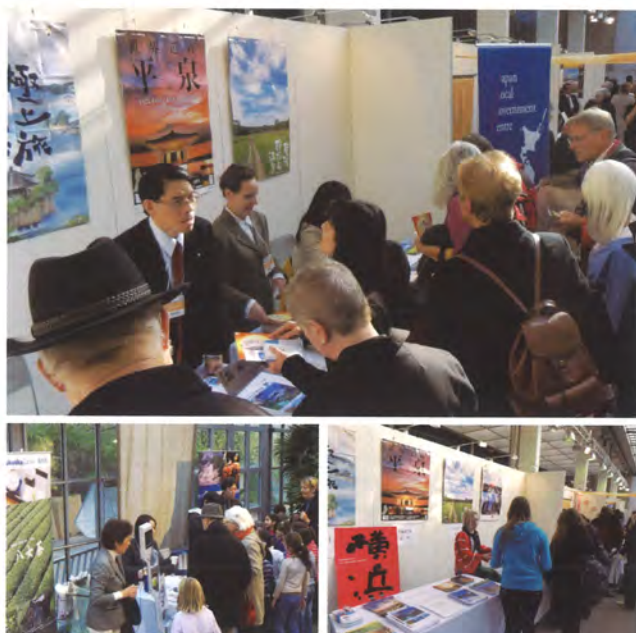
## 自然食レストラン 洋望荘

この度、八戸にて東日本大震災で被災し、一時は参加を断念されたが、在フランクフルト日本国総領事館が紹介したフランクフルト市のコンチネンタル社によるご支援により参加が実現した。会場では野菜細工のみごとな包丁さばきと息子さんのすしをご披露いただき、市民から多くの称賛を得た。



## 財団法人自治体国際化協会 ロンドン事務所

地方自治体の紹介をポスターやパンフレットで展示。前半は岩手県、宮城県、福島県、仙台市の東日本大震災被災者からのメッセージを中心にご紹介いただき、後半はこのたびフランクフルト市と友好関係を締結した横浜市の紹介と福岡県から八女茶の試飲をしていただいた。



## 真庭市観光コンベンション 誘致事務局

ポスターやパンフレットで真庭市の観光 PR の展示。岡山県、備中を代表する桃太郎の鉛筆や、美作温泉の温泉の素などを来場者にご提供いただき、蒜山高原、湯原温泉などの真庭市観光スポットをご紹介いただいた。





## 煎茶道 静風流

日曜日の開催ということもあり、立ち見も満席という盛況振り。3名のお客様に舞台でお茶席の体験をしていただき、抹茶とは異なる煎茶（緑茶）の魅力についてご説明され、実演後には、熱心なお客様からのご質問に一つ一つ丁寧にお答えいただいた。また、和服でご参加のご婦人が散策される姿は、パルメンガルテンの紅葉にとってもよく似合い、多くの来場者からの撮影を受けていた。



## 宝塚茶道同好会

1日に8回のお茶席をご披露。お琴を中心とした日本の伝統的な音楽が流れ、室内での開催ではあったが、会場をお庭に見立てて灯籠を置き、来場者の関心を引いた。一つ一つの所作におもてなしの心が込められている事をご説明いただき、来場者がおおいに頷いておられたが印象的であった。また振袖、留袖、帯など、和服には多くの質問がよせられ、写真も多く撮られていた。



## 閑座会

現地学生の参加なども含めやはり毎回満席の人気。飾られたお軸やお花、お道具について一つ一つ丁寧に説明いただいた。一服のお茶を通して、お客様との無言の語らいを共有する日本の伝統文化についての説明では多くの来場者が笑顔で頷いておられた。お茶の飲み方を、ジェスチャーを交え伝える姿は、言葉を越えた交流を感じる場面となった。



## 弥生会／九州茶道文化交流会

午前中のお茶席に現地小学生低学年がご参加。飽きることなく熱心な視線を舞台に送る子供たちの姿や、子供からの質問に真剣にお答えをいただく場面はとても印象的であった。毎回3名のお客様を舞台に招き、正座やお辞儀、お茶を体験いただいた。来場者から見やすいように正面を向いてのお点前を練習していただき、行き届いたおもてなしの心を表現されていた。





## 藤永会

学校

60名以上の生徒さんを2回に分けて交流プログラムを実施した。事前に学校にお伝えしていた歌「Lightly Low」(ちょうちょ)を三味線に合わせて生徒さんが歌った。上手に歌えた、との藤永会の皆様のお褒めの言葉に生徒さんは目を輝かせていた。また、三味線の楽器と音色に生徒さんは大変興味を持ち、楽器が何でできているか、どのくらいで弾けるようになるのか、など活発に質問をしていた。

- 日時:11月7日(月) 10:00~11:30
- 学校名:フランクシュレ(小学校)
- 交流場所:イベント催事場 ■交流対象:小学生 約120名



## 早稲田ちんどん研究会

学校

小学生約150名を対象に、3回の音楽演奏を含めて交流プログラムを実施した。簡単な挨拶、音楽演奏、「ちんどん」の意味の説明、そして「玉すだれ」の意味を生徒さんに説明をし、魚、橋などの形を作っていただき、お互いに大いに盛り上がった。その後生徒さんからは歌を披露いただいた。最後の質疑応答の時には、生徒さんはわれ先に質問をし、早稲田ちんどん研究会の皆様は質問をした生徒に風船で作った動物などをプレゼントした。

- 日時:11月7日(月) 10:00~12:00
- 学校名:ディスターヴェグシュレ(小学校)
- 交流場所:イベント催事場 ■交流対象:小学生 約150名

## 日本伝統工芸「能面」麻生能忍展

学校

日本伝統工芸「能面」麻生能忍展からお二人が参加し、高校生を中心に100名の生徒さんに複数回にわけて能面の歴史、制作工程、能面の表情等の説明を行い、生徒さんは大変興味をもち、その説明は彼らに感動を与えた。各回の説明の最後には記念品の配布をして質問を受けたが、質問が多すぎて時間的にすべてに答えることができないほどであった。

- 11月07日(月) 08:00~12:30
- 学校名:シューレアムリード(小学、中学、高校併設)
- 交流場所:学校内イベント催事場
- 交流対象:高校生(16~17歳)中心に約100名



## 早稲田大学書道会

学校

早稲田大学書道会の皆様から教えていただいた生徒さんは、皆真剣に和紙に向き合い書き慣れない漢字を書くのに一生懸命挑戦した。そして、早稲田大学書道会の皆様はリクエストされる生徒さんの名前を漢字で書きあげ、生徒さんには大変喜んでいただいた。

- 日時:11月7日(月) 08:30~12:00
- 学校名:リードベルグギムナジウム(小学、中学、高校併設)
- 交流場所:学校内美術室
- 小学生5年生と中学1年生合わせて約70名



## 総合芸術集団 TERPSICHORE 学校

総合芸術集団 TERPSICHORE より太鼓、ピアノが融合された5曲が演奏され、生徒からはスタンディング・オベーションの大喝采が起り、アンコールに答えてさらに1曲演奏された。その後事前に選ばれた25名が太鼓のワークショップを体験した。慣れない動きに戸惑いながらもこのワークショップを楽しんだ。

- 日時:11月7日(月) 08:45~11:25
- 学校名:ムスタシュレ (小学、中学、高校併設)
- 交流場所:学校内コンサートホール ■交流対象:生徒約120名



## 太鼓衆翔鼓 学校

太鼓衆翔鼓の皆様のはちきれんばかりの若さあふれる和太鼓演奏に、生徒さんたちは心うごかされて、その後のワークショップには、見学していた多くの生徒さんが参加した。交流修了後には、一緒に写真をとったりメールアドレスの交換をしたり、とても和やかな時間であった。

- 日時:11月7日(月) 09:30~12:45
- 学校名:ホルバインシュレ (小学、中学、高校併設)
- 交流場所:学校内体育館 ■交流対象:高校生を中心に約120名

## 和太鼓アンサンブル TOKARA 学校

はじめに和太鼓アンサンブル TOKARA の皆様が演奏したが、その時点で生徒さんから大絶賛の声が上がった。ワークショップは全員が体験できたが、生徒さんほっと時間がほしいようであった。最後にもう一度和太鼓アンサンブル TOKARA の皆様に演奏していただいたが、生徒さん、特に男子の生徒さんはやんややんやの大喝采、先生方も感動されたようであった。この体験はその後も学校内で大変な話題となった。

- 日時:11月8日(月) 10:30~12:30
- 学校名:アルバート・シュヴァイツァーシュレ (小学、中学、高校併設)
- 交流場所:学校内体育館 ■交流対象:小学生85名



## 金城学院大学書道部 学校

最初に生徒さんから歓迎の歌を歌っていただいた。生徒さんの入れ替えに合わせて書道パフォーマンスとワークショップの交流をした。まず、1回目は大きな紙に金城学院大学書道部の皆様が音楽に乗りながら書道のパフォーマンスを行い、その後生徒さんにも大きな紙に「学校」という文字を書いていただいた。2回目のワークショップでは、生徒さんが日本語で書きたい文字の見本を金城学院大学書道部が見せながら書道を楽しんだ。最後にまた生徒さんからの歌のプレゼントをいただいたり、記念撮影を行い、楽しい交流であった。

- 日時:11月8日(月) 09:30~12:30
- 学校名:アウグストグレーザーシュレ (小学校)
- 交流場所:学校内音楽室 ■交流対象:小学生約80名



## 柿の木坂芸術学校 / ライオンズクラブ 国際協会 333-B 邦楽合奏団

学校

到着後、一部の生徒とともに朝食を召し上がっていただいた。そして体育館にて、琴や馬頭琴の演奏パフォーマンスを披露して生徒さんに大変喜んでいただいた。その後、イベント用フロアにて書道、伝統的な日本のおもちゃ、そして折り紙等の日本文化実演会を開催し、生徒さんもさまざまな日本文化に触れて楽しんでいただいた。生徒さんからは、「いつまた、学校に来てくれるのか?」といった質問もあり、とても思い出深い交流会となった。

- 日時:11月9日(水) 08:00~12:00
- 学校名:カメリターシューレ(小学・中学併設)
- 交流場所:学校内朝食会場、体育館、イベント用フロア
- 交流対象:生徒 約70名



## ミュージカル平泉上演実行委員会

学校

本来、舞台上で上演されるミュージカルを短くしたものを小学生の生徒さんにパフォーマンスされた。生徒さんは興味深く見学していた。また、校長先生からは、音楽がとても美しかった、とのお言葉をいただいた。ミュージカル平泉上演実行委員会の皆様より、集まっていた生徒さん全員にドイツ語の絵本のプレゼントがあり、後で読み返していただくと、より一層、ミュージカルの内容が理解できると思われた。最後に双方からプレゼント交換があり終了となった。

- 日時:11月10日(木) 10:30~12:30
- 学校名:アルバート・シュヴァイツァーシューレ(小学、中学、高校併設)
- 交流場所:学校内体育館
- 交流対象:小学生 約100名

## 宝塚茶道同好会

老人ホーム

茶道の交流は遅れてスタートしたが、老人ホームの担当者および責任者はとても親切に対応いただいた。茶道交流会参加のホーム入居者は茶道に大変興味を持ち、彼らからの質問も多数いただいた。何人もの入居者は交流会が終了後にご自分達の部屋に帰る前に「とてもすばらしかった。」と宝塚茶道同好会の皆様のところまでお礼の言葉をお伝えに来ていただいた。とてもなごやかな交流会であった。

- 日時:11月6日(日) 15:00~17:00
- 老人ホーム名:ヘンリーウントエマバッジ財団
- 交流場所:老人ホーム内催事場
- 交流対象:老人ホーム入居者、関係者 約60名



## 絵手紙ボランティア コスモスの会 / さくら(会食のつどい)ボランティア

老人ホーム

施設の方からは終始心温まる気持ちの良いもてなしを受けた。施設内のご案内では各所でいいねいな説明を受け、実際の入居者が住んでいる部屋の中まで見せていただいた。歓談場所では、たくさんのお菓子やお茶をご用意いただき、自己紹介から始まり、日本とドイツの老人ホームや老人の現状を話合った。最後には一緒に折り紙を折って楽しんだ。とてもなごやかな歓談であった。

- 日時:11月7日(月) 15:00~17:00
- 老人ホーム名:ハウス アヤテキストア ゲーテ
- 交流場所:老人ホーム内サロン
- 交流対象:老人ホーム入居者でボランティアの方3名と老人ホーム施設代表2名



## 自然食レストラン 洋望荘

老人ホーム

洋望荘の皆様は、約30名の老人ホーム交流参加者に温かく迎えられた。老人ホームの皆様は野菜細工を見るのが初めてであり、大根、キュウリ、赤にんじん等で次々と作られていく花等に「素晴らしい」との言葉が飛び交い、さまざまな質問も洋望荘の皆様にされた。洋望荘の佐藤様より「何か記念に残るもので枯れてしまわないものを作りたい」との要望があり、蝶々をかたどった紙細工を完成させ、老人ホームの皆様からの感謝と感動の拍手で交流が終了した。

- 日時:11月7日(月) 15:00~17:30
- 老人ホーム名:ゾンネンホーフアムパーク
- 交流場所:老人ホーム内カフェテリア ■交流対象:老人ホーム入居者 約30名



## 自然食レストラン 洋望荘

料理交流

洋望荘の佐藤シェフおよび御子息によって寿司は握り、手巻き、細巻の実演とワークショップ、そして試食会、野菜細工は実演とワークショップの交流が実施された。彼らのスキルの高さに見学者一同感激していた。そして日本とドイツにおける食材の扱い方や価値の違い、現在における両国の食料品・調理の問題点、日本食ならではの調理器具など、多方面にわたる説明と質問によるコミュニケーションで生徒の皆様は積極的に参加し、実演の見学とワークショップ体験を楽しんだ。

- 日時:11月8日(火) 07:30~14:45
- 交流専門学校名:ベルギウスシュレ ■交流場所:専門学校内キッチン
- 交流対象:専門学校の料理部門の生徒(約40名)と先生



## 草木染工房しかり

草木染交流

応用芸術美術館の館長はじめ幹部の方々が草木染工房しかりの柴田様を温かく出迎えた。ハンカチを使った草木染めワークショップでは柴田様が精力的に参加者の皆さんの間を回ってご指導いただいた。参加者の大半は「染めもの」の経験があったが、豆汁で植物繊維にタンパク質を補い、繊維と色素の結びつきを強固にする新手法に参加者の皆さんは感嘆していた。皆さんのハンカチは最終的に美しく染め上がり、その草木染めの自然な色合いに魅せられていた。

- 日時:11月4日(金) 12:30~17:30
- 交流美術館名:応用芸術美術館 ■交流場所:応用芸術美術館内ロビー周辺等
- 交流対象:応用芸術美術館が募集した「染めもの」に興味を持つ市民の方など約30名



## スタジオぽこ・あ・ぽこ

舞踊交流

フランクフルト郊外の小さな町、クリフテルの郷土舞踊グループの皆さんが、着物でタップダンスを踊るスタジオぽこ・あ・ぽこの皆様を19世紀農家の衣装で歓迎した。この町の町長もかけつけてくれた。互いの踊りを披露したり、互いの踊りをトライして舞踊交流した。舞踊グループメンバーの皆さんは着物を実際に見るのが初めてで大変興味をもった。その後、ソーセージ、ポテト、アップルワイン等で歓談を大いに楽しんだ。

- 日時:11月6日(日) 16:00~18:30
- 交流舞踊グループ:クリフテラーフェストワーゲンゲゼルシャフト
- 交流場所:舞踊グループ練習場
- 交流対象:舞踊グループメンバー約15人、およびクリフテルの町長



## CENTRE DE DANSE DE OGAKI

バレエ交流

バレタイムホーフからは暖かくお迎えされ、男性の先生による指導で約1時間ほど一緒にレッスンをして汗を流した。その後ワインをいただきながら40分くらい歓談をした。親日家の生徒さんもいて、メールアドレスの交換をしたりしながらとても楽しい雰囲気の中で交流を終了した。

- 日時:11月8日(火) 19:30~21:30
- 交流バレエ学校名:バレタイムホーフ
- 交流場所:バレエ学校内スタジオ
- 交流対象:バレタイムホーフから生徒、関係者 約10名



【写真】舞台公演時

## ムラタダンススタジオ

バレエ交流

初日にはバレエ学校到着後、学校内を見せていただき、生徒さんが着替えている間、ムラタダンススタジオの村田先生とバレエ学校のバルツァー先生とコミュニケーションをとり、和気あいあいと和やかに交流の打ち合わせをした。各交流日もレッスン進むにつれ、生徒さんの緊張もほぐれ、楽しんでいる様子であった。また、バルツァー先生は、一人一人の生徒さんに姿勢や力の入れ方を指導され、生徒さんにお褒めの言葉をかけていた。素晴らしいバレエ交流の3日間であった。

- 日時:11月7日(月) 16:15~17:15 11月8日(火) 16:00~17:00  
11月9日(水) 16:30~17:30
- 交流バレエ学校名:マリオン・バルツァー
- 交流場所:バレエ学校内スタジオ
- 交流対象:各交流日マリオン・バルツァーの生徒(8~14歳)11~16名



## J バレエアーツイルンガ

バレエ交流

J バレエアーツイルンガの25名程の皆様がマリオン・バルツァーのバルツァー先生からグループレッスンを受けた。最初は J バレエアーツイルンガの皆様のパレエのレベルが分からないので、難しいことはやらない、とのことでしたがレッスンを進めるにつれて皆様の可能性を見出し、ご自身の生徒さんとともにだんだんと難しいことを希望され、それを達成するために、一人一人の体の形や手の動きなどを直されていた。レッスン後、バルツァー先生は J バレエアーツイルンガの皆様にお褒めの言葉をかけられ、バルツァー先生の生徒のパレエをご披露いただいたり、記念写真をいっしょに撮ったりしてバレエ交流を楽しんだ。

- 日時:11月10日(木) 19:00~21:00
- 交流バレエ学校名:マリオン・バルツァー
- 交流場所:バレエ学校内スタジオ
- 交流対象:マリオン・バルツァーの生徒6名



## まつさかチャレンジドプレイス 希望の園

障がい者施設訪問

まつさかチャレンジドプレイス希望の園の皆さんを家庭的な雰囲気の中でアトリエゴールドシュタインの皆様は受け入れていただいた。ドイツの古典的な技法を使った版画のワークショップを実施し、できあがった作品は、ジャパンウィーク®の展示会場で展示され、多くの来場者の皆様に、日本から持参したまつさかチャレンジドプレイス希望の園の皆様作品とともにご覧いただいた。昼食は手作りのドイツ料理を共に楽しんだ。今後も交流を続けていきたいと思います、と互いに約束してなごやかな雰囲気の中で交流を終了した。

- 日時:11月7日(月) 10:30~16:30
- 交流施設名:アトリエゴールドシュタイン
- 交流場所:アトリエゴールドシュタイン内アトリエ
- 交流対象:アトリエゴールドシュタインの中から数名





## 日本ドイツリート協会

音楽交流

到着後の10時頃からメルクレ教授によるレッスンを開始した。5人ほどの方が歌い、集中的に講義を受け、伴奏のピアニストの方もさまざまなアドバイスをいただいた。レッスンは昼休みをとらずに翌日のコンサートの歌の選曲をして14時半まで続けた。

- 日時:11月8日(火) 10:00~14:30 <レッスン>
- 交流大学名:フランクフルト音楽・舞台芸術大学
- 交流場所:大学内レッスン会場
- 交流対象:担当指導教授(メルクレ教授)



予定より早く大学に到着して、前日に引き続きレッスンを受けた後、14時半からリハーサルを実施した。そして、16時からトークコンサートを開始した。日本の歌曲では作者や内容について説明もあり、コンサートを見学した皆様から多くの喜びの拍手をいただき、予定通り2日間にわたるフランクフルト音楽・舞台芸術大学との音楽交流は終了した。

- 日時:11月9日(水) 11:30~18:00  
<リハーサル、トークコンサート(16:00~18:00)>
- 交流大学名:フランクフルト音楽・舞台芸術大学
- 交流場所:大学内ホール ■交流対象:大学内音楽指導関係者、学生

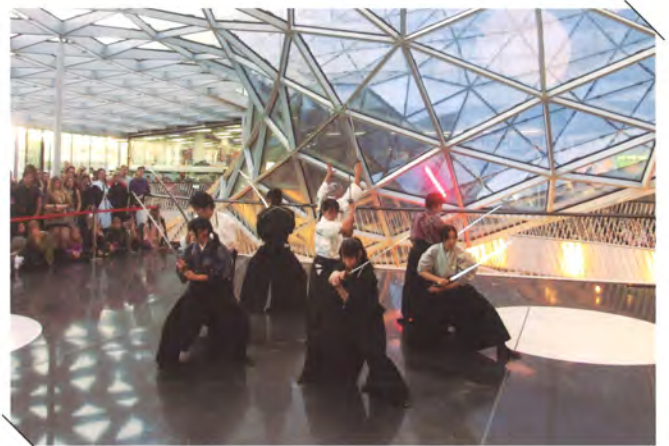


## 剣伎衆かむみ

殺陣のパフォーマンス

オープンスペースを臨時に仕切ったスペースでのパフォーマンスとなった。リズム感のある音楽の流れる中でのすばやい殺陣のパフォーマンスに見学の市民からは拍手喝采であった。また、コミカルなパフォーマンスや、見学者の中から殺陣の主人公になっていただき、剣さばきを披露していただく場面などもあり、見学者には大変楽しくこのパフォーマンスをご覧いただいた。

- 日時:11月6日(日) 15:00~16:30
- 殺陣のパフォーマンス場所:マイツァイル ショッピングセンター内のイベント用オープンスペース
- 見学者:ショッピングセンターにご来店の方 約300名



## 野外宣伝パフォーマンス

## 早稲田ちんどん研究会



浜松・花蝶ちん

早稲田ちんどん研究会および浜松・花蝶ちんの皆様にはフランクフルト市内をちんどん演奏しながら練り歩き、ジャパウィーク®PRのステッカーを配っていただいた。イベントを大変盛り上げていただいた。



## フランクフルト中央駅の視察と フランクフルト～ヴェルツブルク間 貸切列車乗車

**西** 日本各地から有志が参加している西日本友好親善訪問団は、鉄道関係業務に従事している参加者が多いことから、今回はドイツ鉄道との鉄道関係行事を組み込んだプログラムとなった。フランクフルトに到着した翌日は、各滞在ホテルを出発し、現地ガイドの案内のもとヨーロッパ内でも最大級かつ建築構造が素晴らしいフランクフルト中央駅構内を視察。その後、ドイツ鉄道によって特別に手配された貸切列車に乗車し、ロマンティック街道の出発地点であるヴェルツブルクへと向かった。ヴェルツブルク中央駅に到着した後は、ヴェルツブルク市内を観光。大司教の宮殿として建てられユネスコ世界遺産にも登録されているレジデンツをはじめ、歴代ヴェルツブルク大司教の居城となっていたマリエンベルク要塞を見学。マリエンベルク要塞から一望できるヴェルツブルク旧市街の美しい町並みに一同は感銘を受けた。なお本年はこの他、10日にフランクフルト市内のIHK（商工会議所）にて、ドイツとの鉄道シンポジウムも開催された。

- 日 時：11月7日(月)・9日(水)
- 場 所：各ホテル→フランクフルト中央駅視察→  
フランクフルト～ヴェルツブルク間貸切列車乗車→  
ヴェルツブルク市内観光



## フランクフルトナイト

**今** 今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、今年9月に完成した新しい施設「Thurn und Taxis Palais（トーン ウント タクシス パラス）」にて夕食会「フランクフルトナイト」を開催。日本側は7日が丸尾和明氏/株式会社日本旅行代表取締役社長、9日が前中弘美氏/株式会社日本旅行取締役兼常務執行役員西日本営業本部長、ドイツ側は7日がトーマス・フェダ氏/フランクフルト市観光局、9日がベルンハルト・マイアー氏/フランクフルト市市会議員のそれぞれのご挨拶で開始されたフランクフルトナイトは、参加者の皆様に地元の食材を使用した創作ドイツ料理のコースをご堪能いただくとともに、アトラクションでは、歓談中の弦楽四重奏をはじめ、ドイツの民族衣装をまとった男性8人組が現地の民族音楽をコミカルな動きとともに演奏し、会場の雰囲気を盛り上げた。そしてこの夕食会は盛況のうちにおひらきの時間となり、来年の開催地スペイン、バレンシアの案内とともに終了した。

- 日 時：11月7日(月)・9日(水)
- 場 所：Thurn und Taxis Palais  
(トーン ウント タクシス パラス)



# コラボレーション

日独双方の参加者の皆様によるコラボレーションパフォーマンスが舞台公演を中心に行われ、コラボレーション参加者のみならず、観客の皆様にも交流パフォーマンスを楽しんでいただいた。

世界盆踊り連



日独交流 150 周年を祝う婦人の会  
(日独盆踊り会)



ジャスタ名古屋  
(日本弦楽指導者協会中部支部)



湖西市民合唱団



ジングウトシュピールクライス  
フランクフルト



和太鼓 アンサンブル TOKARA



桜の木太鼓



栗の木 和太鼓フランクフルト













# 現地参加団体



まいごデザインスタジオ



ヴィーマイ会



在フランクフルト日本国総領事館 日本政府観光局 (JNTO)



盆石と囲碁



指圧ルーム フランクフルト



アバ イメージス 盆栽ギャラリー



アトリエ 侘び寂び



紫光会ヴィースバーデン



ドイツなぎなた連盟



コス・シュムックマニファクチュア & ジュエリーワークショップ



日独交流 150 周年を祝う婦人の会 (日独盆踊り会)



日本人国際学校フランクフルト



ギャラリークノッツマン



草月 スタディーグループビンゲン



日本人国際学校父母の会  
ガラス工芸クラブ



第一フランクフルト空砲射撃隊



田島 裕子



ジングワントシュビールクライス  
フランクフルト



桜の木太鼓



栗の木 和太鼓フランクフルト



第一ドイツ柔道クラブ



古武道ヘッセン



TGS フォアヴェアト 1874e.V +  
FTG フランクフルト



SG ニート 1877 + ザクセンハウゼン道場



支援してくれたドイツの人たちの心は忘れない。ありがとうドイツ！  
Wir vergessen nicht die Herzlichkeit der deutschen Bürger, die uns beigestanden haben.

**Danke Deutschland!**

JAPAN WEEK



## 編集後記

**今**回のジャパンウィーク®開催にあたり、フランクフルト・アム・マイン市側関係者並びにフランクフルト側実行委員会の熱心な受入の協力を感謝申し上げます。またジャパンウィーク®運営を支えてくれた、在フランクフルト日本国総領事館、フランクフルト日本法人会、独日協会フランクフルト、フランクフルト観光局そして日本においては在日本ドイツ観光局の皆様方に厚く御礼申し上げます。わけても昼夜を問わず共にこの運営に携わっていただいた現地コーディネーターそしてジャパンウィーク®の主旨にご賛同いただき、お忙しい中にも関わらずボランティアを買って出てくれた皆様方、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々のご協力なくして無事終了する事は出来ませんでした。ここに深く感謝申し上げます。今年の日独交流150周年の記念すべき年であり、又、東日本大震災と

言う大変悲しい出来事もありましたが、世界各国から温かい支援を頂きました。わけてもドイツ連邦共和国から、いち早い支援をいただきました。ジャパンウィーク®においても重枝総領事の発案で、被災した団体を呼ぶ為に寄付を募って参加が実現したことは誠に喜ばしいことでありました。

このような状況下、日本全国各地よりジャパンウィーク®の趣旨にご賛同いただき、ご参加いただき日本・ドイツでの草の根レベルの国際交流にご活躍された皆様方に厚く御礼申し上げます。今後も、真摯な相互理解・異文化理解の輪を広げて、世界が心一つになれることにジャパンウィーク®を通じて貢献できれば幸いです。皆様方のご支援・ご協力を引き続きお願い申し上げる次第です。







助 成



公益財団法人 双日国際交流財団

主 催



公益財団法人 国際親善協会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-4 鴨原ビル 3 階

TEL : 03-5802-0351 FAX : 03-5802-0353

E-Mail : [info@iffjapan.or.jp](mailto:info@iffjapan.or.jp)

URL : <http://www.iffjapan.or.jp>